

# 第7回 「日本の医療」を展望する 世界目線

～ 相対化で課題を探り、将来を見据える～

多摩大学大学院教授 真野俊樹

## 【韓国】産業としての医療ツーリズム

### 医療ツーリズムの国策化

韓国医療は産業的視点にかじが切られた。具体的にいえば、特区での株式会社病院の導入と医療ツーリズム政策である。

韓国の医療制度は日本から取り入れた部分が多い。従って、利潤を目的とする患者の誘致、勧誘、仲介および紹介が韓国の医療法で禁止されていたが、2009年1月から施行された医療法改正により、在外の外国人患者に関して患者の誘致、勧誘、仲介および紹介活動が可能になった。さらに、その誘致に関する登録制度が開始された。

また、外国人患者に限定されたビザすなわち外国人患者とその保護者に限って発給される医療観光ビザ(Medical Visa)を新設した。このビザは患者と介護目的で患者に付き添う配偶者および家族、さらには外国人患者を誘致できる登録された医療機関や斡旋業者の招待により、医療機関での診断や治療、回復を目的に韓国に入国する患者に発給される。

また、英語・日本語・中国語・ロシア語・アラビア語の5カ国語で24時間対応のメディカルコールセンターを設立した。韓国政府の保健福祉人力開発院(KHRDI)においても、5カ国語に対応した医療通訳者の養成に力を入れている。

さらに、国際病院マーケティング専門

家コースや国際医療コーディネーターコースがいくつかの大学や大学院、韓国観光公社および地域観光機関、韓国産業人力公団など労働省関連の機関と民間学術団体で提供されている。

近年では、国対国で協力強化を進めている。国籍別にみると、アラブ首長国連邦(UAE)が2014年の前年比129.0% (2644人)、カザフスタンが同177.8% (8029人)、ウズベキスタンが同40.2% (1904人)の割合それぞれ外国人患者が増加した。

### UAEとの関係強化

このような動きの背景には、アラブ諸国などと韓国との緊密な関係がある。UAEドバイ首長国のドバイ政府が医療産業の集積を目指して2002年に開設したDHCC(Dubai Healthcare City)というフリーゾーンがある。韓国のサムソンメディカルセンターはUAEの代表企業であるインデックス・ホールディングス(INDEX Holding)社と共同で2010年4月7日、DHCC内に「SMC INDEXメディカルセンター」をオープンした。

韓国とUAEの関係は日本とUAE以上に緊密で、「両国の関係の緊密化は、ただ単に東アジアと中東湾岸の間に存在する2国間関係の変化にとどまらない」「韓国とUAEは、ともにこのグローバル化の第2ステージの成功者」で、グローバル化の第2ステージは韓国やドバイの経済におけるグローバル化が代表だという。「グローバルコリア」の成功に伴う経済発展の韓国モデルが、UAEのシンガポールを模範としてきたモデルに取って代わり、科学技術と人

材に投資し知識経済への移行を果たした韓国への注目度が高まってきているという。その中での相互補完性が求められ、その一つがこの例かもしれない。

### 外国人患者の診療費

これらの活動によって、2007年に7901人だった外国人患者誘致数が2009年には約6万200人にまで増加し、外国人患者における総収入は547億ウォン(42億円)にまでのぼった。そして、2014年には26万7000人の患者数になり、うち中国人が7万9841人と30%近くとなった。外国人患者の診療費は総額5569億ウォン(約622億7000万円)となる。

UAEからの患者の診療費は405億ウォンで、中国人患者(1403億ウォン)、ロシア人患者(1111億ウォン)、米国患者(563億ウォン)の診療費には劣るが、米国については米国籍の韓国人の診療が多い点、中国やロシアは隣国である点を考えると、実際、医療ツーリズムは隣国からの患者が多数を占めるケースが多いので、はるばるUAEから診療を受けに来るということの意味は大きい。

このことは韓国自体のイメージアップにもつながる。実際に筆者がUAEに住む英国人の医師らにヒアリングをした時にも「韓国は近く、日本は遠い」というイメージを持っていた。

カンナムスタイルやK-POPに見るように、韓国で



写真②:病院車にもJCIのマークを付ける徹底ぶり



写真①:ソウル国立大学病院の新しい病棟

はうまく自国ブランドを育成している。この辺り、モノづくりの国である日本も学ぶべきであろう。

### 医療ツーリズムに熱心な病院の例

ソウル国立大学病院(写真①)も積極的に医療ツーリズムに取り組み、国際患者センターという専門施設を持っている。最近では日本の国立大学病院でも、九州大学病院、大阪大学病院、東京大学病院などで国際医療センターが相次いで作られているが、韓国の方が何年も早くこの取り組みをしていることになる。

しかし医療ツーリズムといえば、有名なのは専門病院としては韓国初のJCI(国際病院評価機構)認証を取得した民間病院のウリドル病院(写真②)であろう。整形外科専門のこの病院では最小侵襲の手技の導入で在院日数を短縮しており、平均在院日数は現在4日である。脊椎手術の専門化を試み、各領域別センターの概念を導入し、手術センター、治療センター、画像診断センターなどに分けて運営している。

もともとこの病院はソウルの江南エリアにあったが、競争の激化、医療ツーリズムへのフォーカスのために、キンポ空港の中に分院を開設している。なぜ空港の中に病院を作ったかということ、もちろんこれは、国内の遠方や、海外からの患者を見込んでのことである。